

頭陀袋

⑧平成二十六年一月号

中山かんのん

恩林寺



中山中学下、電話三四一―一二四五

人は使命に生きる

人生とは、生まれ、老い、病み、死ぬものです。なぜ人間は生まれ、死ぬのでしょうか？

仏教では以下のように説いて居ります。

「因縁によって生じたものは、また因縁によって滅する」生者必滅、会者定離であります。つまりは生があるから死があり、出会いがあるから別れがあるのです。又、はじめがあるから終わりがあるのと同じことです。万物はすべてこのように、人間だけが例外ではありません。ですから、決してもだえたり悲しんだりするものではないのです。さて、人は因縁によって生まれた以上、生きなければなりません。いかに生きるかが今後の大きな課題であります。

そこで、ひとつの生き方として、表題のように「人は使命に生きる」があります。

人は、この世に生まれた以上、好むと好まざるにかかわらず、何らかの役目を果たさなければ生きられないということであります。ところで、人生を、劇場にたとえることがあります。演劇は、筋書きに基ずき、それぞれの役割に応じて、みんなが一致協力してこそ立派な演劇ができるのです。

私たちは社会と言う大きな舞台で、人生と言う演劇を成功させるためにそれぞれ、役割分担をしているのであります。自分の役

割は何か？つまり自分の使命は何かとしっかり自覚して最善をつくさねばなりません。……、らしくと言う言葉がありますが、たとえば男らしく、女らしく、子供らしく、母親らしく、のようになります。自分の役柄を大切にありません。そのほか、人には、いろいろな役目があります。あれもこれも、と沢山の役割をこなさなければならぬこともあります。その役目をしっかり果たすと言うことがいかに生きるか、と言うことになります。

主役、脇役、よい役、悪い役、難しい役、優しい役、さまざまありますがみんな大切な役なのであります。その役割をいかに演じていくかは、その人自身の問題であります。立派に正念場を作り、自分の使命を尽くしたいものであります。

年末、年始のお寺の行事について

十二月三十日

大掃除、仏前荘嚴。

三十一日午後四時・歳晚諷經

(年末のお経)

三十一日午後十一時半除夜の鐘

一月一日午前零時 歳旦祝聖

(歳の初めのお経)

一月一日 午前九時から岡本三寺参り

願生寺、真光寺、恩林寺

下岡本三ヶ寺を年始を兼ね巡拝。
一月二日より、五日ころまで

住職が各檀信徒様宅に年始
ご挨拶に伺います

除夜の鐘 私たちがこの一年犯した悪い行い、罪、穢れを百八の鐘をつくことにより懺悔(反省)し、心の洗濯をして新しい歳を迎えましょう。どなたでも参加ください。